

2025 名古屋大学（前期）数学（文系）概評

出題分析		
試験時間 90 分	配点 点	大問数 3 題
分量（昨年比較）〔減少 同程度 増加〕		難易度変化（昨年比較）〔易化 同程度 難化 〕
<p>【概評】</p> <p>易しかった昨年より難しくなった。①は昨年出題されなかった微積分からの出題で、文系単独の問題であるが、計算量が多く厄介である。</p> <p>残り 2 題は理系との共通問題である。特に③は文系にしては難しい問題であった。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
①	積分（放物線と直線が囲む図形の面積）	(1)は r, s の意味をとらえると解答しやすい。 (3)は中途半端な図形の面積の計算である。 誘導に従って計算すればよいが、置き換えや平行移動などの工夫をする方が簡単である。	やや難
②	整数（不定方程式）	因数分解して素因数を振り分けるタイプの定型問題である。 $a + b$ と $a - b$ の偶奇が一致することに着目する。 (2)では $a + b$ と $a - b$ がもつ素因数 p の個数を文字でおく。	やや易
③	確率（反復試行の確率）	(2)は答案を書くのが難しい。各コインが裏返るのが、どのコインを選んだときかに着目すると、 各コインが選ばれるべき回数の偶奇が分かる。	やや難

合格のための学習法

名大は文系にしてはややレベルの高い出題も見られるため、微積分、数列、確率、整数、図形と方程式などの頻出分野の定型問題を多く解いておこう。特に確率は思考力を鍛える良問が多く見られる。理系の問題も含めて手を出しておくといよい。